

古典教材 開発の 課題と 可能性

古典教材の未来を
いっしょに考えて
みませんか？

プログラム

第1部 基調講演 13:00~14:15



なぜ「くずし字教育」が
必要なのか

飯倉 洋一(大阪大学教授)

第2部 パネルディスカッション 14:15~15:50

「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」

和本にふれる (小学校)

近江弥穂子 (横浜市立藤が丘小学校学校司書)

古典と地域学習 (中学校)

永田 郁子 (滋賀大学教育学部附属中学校教諭)

オンラインで出前授業 (高等学校)

加藤 直志 (名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校教諭)

ものづくりと古典 (高専)

森木 三穂 (鶴岡工業高等専門学校助教)

パネリスト

ディスカッサント | 飯倉 洋一 (大阪大学教授)

司会 | 三宅 宏幸 (愛知県立大学准教授)

第3部 意見交換会 15:50~17:00

日時

2021
3月28日[日]
13:00~17:00

場所

Zoomによる
オンライン

参加費

無料

定員

150名
(先着順)

締切

3月26日[金]

申込はwebサイトから



主催：基盤研究C「興味関心を喚起するくずし字や和本を用いた新しい
古典教材の開発に関する実践的研究」(代表者 山田和人)
※本研究はJSPS科研費20K00326の助成を受けたものです。
共催：第2回「古典教材の未来を切り拓く!」研究会(コテキリの会)
画像：『扇の草紙』日本古典籍データセット(国文研蔵)

科研費
KAKENHI

12:45～	会場開室	総司会 加藤 弓枝 (鶴見大学准教授)
13:00～	開会の辞	山田 和人 (センター長・同志社大学教授)
13:10～	基調講演	<p>なぜ「くずし字教育」が必要なのか</p> <p>飯倉 洋一 (大阪大学教授)</p> <p>ここ10年ほど、くずし字解読に対する関心が深まるとともに、AIによるくずし字認識技術も急速な進化を遂げている。このような、くずし字解読への追い風現象を紹介するとともに、なぜ「くずし字教育」が必要なのかという問い(逆風)への回答も考えたい。</p> <p>【経歴】 研究分野は日本近世文学。著書に『秋成考』(翰林書房、2005年)、『上田秋成 絆としての文芸』(大阪大学出版会、2012年)、『前期読本怪談集』(校訂代表、国書刊行会、2017年)などがある。くずし字アプリ「KuLA」開発チーム代表。</p>
14:15～	パネル ディスカッション	<p>「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」</p> <p>古典教育の課題を発見・解決するために、くずし字や和本を用いた古典教材の実践的な研究と開発が注目されている。また、検定教科書にもくずし字が掲載されることとなった。教育機関の壁を越えて、新たな古典教育の可能性を切り拓くために、現場からの提言をもとに議論していきたい。</p> <p>[パネラー発表題目] 近江 弥穂子 貴重書出前授業が伝えてくれたこと</p> <p>永田 郁子 古典学習で「郷土」を見つめる — 単元名「『芭蕉好み』を感じとろう」(中3)の実践を通して —</p> <p>加藤 直志 教科書との接続を意識した、オンライン授業の実践例 — くずし字による古典教育の試み(6) —</p> <p>森木 三穂 古典のSTEAM化 — 「ものづくり」による学びの実践 —</p> <p>ディスカッサント 飯倉 洋一 (大阪大学教授) 司会 三宅 宏幸 (愛知県立大学准教授)</p>
15:50～	意見交流会	「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」について日々の実践にどのように組み入れることができるのか、どうすれば古典嫌いをなくしていけるのか、基調講演者・パネリストとともに気軽に率直に意見交換をしませんか?

運営 宮川 真弥 (天理大学附属天理図書館司書研究員) 加藤 弓枝 (鶴見大学准教授)

同志社大学古典教材開発研究センターのご紹介

センター長 山田 和人

本研究センターは、古典に備わっている豊かな教材性を追求し、全国の古典文学・国語学・国語科教育の専門家や書誌学・文献学の専門家とも協力することで、子どもたちの古典への興味関心を喚起できるくずし字や古典籍を用いた新しい古典教材の開発と実践を目的として活動しています。

今後、新しい古典教材に関する検討や開発を進め、公開授業の実施や研究集会、シンポジウムなどでの議論で得られた知見を活かし、教育現場でも活用できる古典教材を開発することによって、言語文化分野の教育・研究の発展に寄与したいと考えています。

古典教材の故郷である京都の地に本研究センターを開設することの意義は大きく、今日に至るまで蓄積されてきた伝統文化・言語文化の遺産を継承し、国語教育や古典教育の新たな可能性を切り拓くための研究拠点としての役割を果たしていきたいと思っております。



参加費 **無料**

募集人数 **150名**(先着順)

申込方法 2021年3月26日(金)までに下記のWEBサイト(右QRコード)へアクセスのうえ、参加申込フォームからお申し込みください。

URL ● <https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl/events-1>

